

6/1 いのちを見つめる日

～わたしたちにとって一番大切なものは「いのち」です～

6月1日は、いのちを見つめる日です。佐世保市の小中学校では全校朝会を行い、いのちの大切さについて考えています。また、6月はいのちを見つめる強調月間として、学校開放週間や授業参観等をとおして、学校・家庭・地域が一緒にいのちについて考えます。

全校朝会で校長から子どもたちに話をした一部を紹介します。



「どうしていのちは一番大切なんですか。」

- ①私のいのちは世の中にたった一つしかありません。
- ②そして一度失ったいのちは二度とよみがえりません。ゲームの世界では生き返られるけど、現実の世界では絶対に生き返りません。だから自分のいのちを粗末にははいけません。
- ③そしていのちの重さ・いのちの価値は、自分も周りにいるみんなも同じなのです。自分だけ大切なのではないのです。隣のお友達のいのちも自分のいのちと同じように大切なのです。

「私たちにいのちをくれた人はだれでしょう」

お父さんとお母さんですね。では、そのお父さんとお母さんにいのちをくれたのはだれですか？おじいちゃん、おばあちゃんですね。おじいちゃんおばあちゃんにいのちをくれたのは、ひいおじいちゃんひいおばあちゃんですね。このようにご先祖様がつながって私たちのいのちをくれています。私たちはご先祖様のいのちをもらって生きているわけです。いのちは目に見えないけどずっとずっとつながっていくのです。だから自分のいのちは自分だけのものではないのです。家族のみんなもみなさんのことを大切に思ってくれています。

この後、詩を朗読しました。

最後に「皆さん一人一人が、自分の『いのち』を大切にしながら一生懸命生き、そして人への思いやりを忘れない人になってほしいと思っています。『笑顔が輝き、優しさあふれる学校』をみんなで作っていきましょう。」と締めくくり、話を終わりました。

この1か月間はいのちの大切さについて、様々な活動や学習を通して考えていきます。